

2022/01/18（水曜日）13：10－14：40

「キリスト教主義教育同志社でのイスラーム研究」

四戸 潤弥  
神学部教授

1. 同志社大学、および諸先生、学生の方々への感謝
  2. 校祖 新島襄生誕の地の碑文にみるキリスト教教育、碑文に記された小学校名
  3. 新島襄のキリスト教信仰と実践との関係性に見る「信仰と良心」
  4. 孟子の良心キリスト教の良心
  5. 一神教信仰と、自己自身に見出す良心
  6. 安中藩の朱子学 良心、あるいは良知
  7. キリスト教主義同志社でのイスラーム研究
  8. キリスト教とイスラームの信仰における他力、良心にみる自力
  9. 京都の宗教環境:浄土真宗に見るイスラームとの共通性:他力と信徒理解と、実践力
  10. 研究の視点:イスラーム研究の視点
    - 1) 他力と自力、人間の常態での他力信仰、イスラーム到来理由としてのシルク（多神崇拝の否定）、一日五省の信仰実践、反省後の歩みを許す懲罰なしの宗教、自立からの離脱と神からの助けによる信仰の確立
    - 2) 宗教団体法（1939 公布）で保証された日本人の信仰する宗教の一つとしてのイスラーム、外国宗教の受け入れによる日本の国際的地位の向上:原正男『日本精神と回教』、外国宗教として今も見る日本人（2010 公安情報漏洩）、
    - 3) アフマド有賀のイスラーム信仰と、長男でキリスト教神学者有賀鐵太郎（同志社大学神学部学部長）のキリスト教信仰：時代に最も相応しい宗教で、アジアの宗教のイスラーム
    - 4) ジェンダー研究者のイスラーム研究の検証を通じての新たな発見:婚約撤回権、婚資返還放棄の夫の離婚権行使、一夫一妻のイスラームの婚姻関係構造など
- 最後に

## 1. 同志社大学、および諸先生、学生の方々への感謝

最終講義にあたり、同志社大学、及び諸先生、学生の方々に、同志社大学でイスラーム研究の機会を与えていただいたことに対し、心からの感謝を申し上げたいと存じます。

同志社大学は、キリスト教主義大学であります。イスラーム研究を宗教の立場から研究する機会を与えてくれた唯一の日本の大学だと感謝しております。

2003年4月に赴任した当時は米国の対イラク戦争が始まっていました。米国ニューヨーク同時多発テロ事件でニューヨークの世界貿易センタービル（ツインタワービル1973年開業）が2001年9月11日の航空機乗っ取り自爆テロで崩壊した後、米国は報復措置として、自爆テログループを庇護したアフガンのタリバン政権に戦争を仕掛け、その後の2003年3月には対イラク戦争を開始したというような時期でしたので、イスラームは過激派が信仰する暴力的宗教として位置付けられていた時期でした。

それから10年くらい経て、同志社大学に、両親の一方がイスラーム教徒である学生たち、イスラーム世界の留学生たちも学び始めるという状況になりました。

大きく環境は変わり、イスラームが宗教研究としてできるようになってきました。

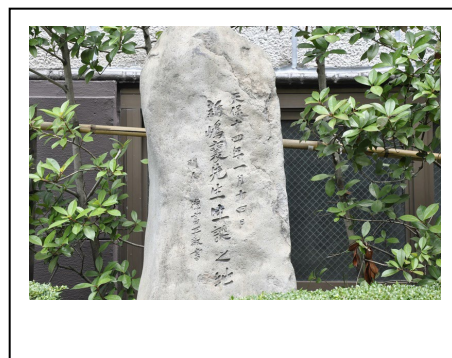
2003年に赴任して、今年度で20年になりますが、それまで東京の方に在任して、その中で、イスラーム世界の日常生活の中のシャリーア（イスラーム法）をまとめた『イスラーム世界とつきあう法』（東洋経済新報社1992年刊）を出版していました。フジ産経グループの夕刊紙の両面で特集されたり、書評が掲載されたりしました。この本の視点が2010年頃辺りから理解されるようになったことは講義や、研究発表している中で、感じる事ができました。この時期辺りから東京での研究視点が回復できて、現在に至っております。

ついでですが、クルアーンの読み方から形成されたアラビア語文法語形論を中心にまとめた『現代アラビア語入門講座』上下2巻（東洋書店1996年）の単著を出版していました。こちらの方は内容が文法ですので読者は限定され、また日本でのアラビア語学習方法とは違うアラブ人ネイティブの学習方法でしたが、理解者が徐々に増えていきました。語形論はアラビア語学習速度を速め、書けるアラビア語の能力を向上されることに繋がるものです。

## 2. 校祖 新島襄生誕の地の碑文にみるキリスト教教育、碑文に記された小学校名

東京神田神保町交差点から歩いて直ぐのところに、住所は神田錦町3-28、学士会館建物南側新島襄生誕百周年を記念した生誕の地の碑（1965年）があり、偉人が生まれた場所となっております。その生誕の碑の傍らに、金属板案内に、新島襄先生の立志の生涯が記されていますが、最後に、同志社創立九十周年を記念してと記され、その横に、連名で、錦町三丁目町会、錦華小学校、小川小学校とあります。同志社大学社史資料センターの方に伺ったところ、「土地は文部省、地上権は東京大学が所有していたので交渉し、碑を建てて東京大学に寄贈したという経緯のようです。東京大学総長からの受取状が社史にありますので東京大学に寄贈したことは事実かと思われます。」とのことでした。土地は国有地

で、地上権は東京大学、学士会館南側に生誕の碑があり、その脇の説明の金属板には地元町会と小学校が連名であります。生誕の碑などは同志社大学でしょうが、説明板の経緯は分かりません。私立でありながら、地元に関与した偉人であるのは、きわめて市民社会的な気がします。、通る度に写真をとっています。生誕の地にある町内の子どもたちに焦点を当てた経緯はなぜなのでしょう？社史資料センターの方によれば、1941年設置時に添付の『同志社新報』第62号右下にある記事「錦町のヨイコども」がヒントではないかとのことでした。



### 生誕の地碑の説明版

#### 新島襄先生 生誕地記念の碑

京都同志社の創立者新島襄先生は一八四三年（天保十四年）上州安中藩主板倉伊豫守の江戸藩邸に誕生せられた。先生は幕末における国家多難の際、わが国の前途をうれいキリスト教の信仰と海外事情研究を志して二十一才（一八六四年）函館より密かに脱国、米國に渡航し新英州キリスト教文化の根本を体得せられた。母国日本の隆盛をはかるためには、単に法律、政治、経済の改革のみによっては建せられるものではなく、人民の一人一人が、「知識あり品位あり自ら立ち、自ら治め」うるものであり、「良心の全身に充満したる丈夫」となることによってその目的を達しうるものであることを痛感せられた。留学十年、一八七四年（明治七年）帰朝、翌七五年十一月二十九日、京都に同志社を建てキリスト教をもって徳育の基本とした教育のためにその生涯を捧げられた。

この碑は新島襄先生の生誕百年を記念して建てられたが、神田錦町出身の偉大な先覚者をしのび、この解説を掲示するものである。

昭和四十年十一月

同志社創立九十周年を記念して  
錦町三丁目町会  
錦華小学校  
小川小学校

(省く、英文説明)

#### 個人的な関連事項

また新島襄の奥様、八重さんは福島の子津藩士の娘ですが、自分の祖母は親戚を含め会津藩士の家、祖母の祖父（高祖父）は、京都守護職となった松平容保侯に従って京都にきまして戊辰戦争で京都に参加しました。会津の殿様の家は浄土宗で、京都御苑東の通り向こうの浄土宗大本山、清浄華院（しょうじょうけいん）を当初、宿泊所として利用したそうですが、これは同じ仏教宗派との繋がりが、つまり宗教的繋がりが会津の一地方領域を超えた場合、人間関係の重要な要素だった表れなのではないでしょうか。祖母の家も浄土宗でした。会津藩は幕府崩壊の後、諸藩の中でも一番過酷な扱いを受け、少なくとも明治初期は会津藩とその関係者にとっては過酷な時代であったようです。祖母や祖母の親戚にとっては敗戦とは、明治維新まえの戊辰戦争での敗戦が第1の敗戦で、後の、太平洋戦争での日本の敗戦は第2の敗戦だったようです。同じ日本人であっても、明治維新で勝者の側に立った者と、敗者の側に立った者とは、世の中の見方が大きく異なっているようです。

#### 3. 新島襄のキリスト教信仰と実践との関係性に見る「信仰と良心」

さて、新島襄の同志社は、キリスト教主義による教育を実践することをモットーとしていますが、それが具体的には何かというと、新島襄が一学生に宛てた手紙に書いた「良心の全身に充満したる丈夫（ますらお）の起り来（きた）らん事を」（良心が全身に充満した青年が現れることを）望んでやまない。」ということです。先の、生誕の地碑の説明看板にも、このことばが記されています。

今出川キャンパス大学正門に入ると、良心の碑が立っていますが、それを私が言う必要はありません。



良心の充満ということばは力強く、将来のある若者へ向けたものでしたが、それが大学のモットーになっています。

しかし、これはキリスト教がなくても成立することばであるのは、儒教の孟子の性善説を想起させるからです。

また「健全な精神は、健全な肉体が宿る。」と、ローマの詩人ユヴェナリウスの言葉も想起させます。ただ、これは誤訳であるとの説もあります。「健全なる肉体の中に、健全なる心」との説もあります。

##### 5. 一神教信仰と、自己自身に見出す良心

新島襄は江戸幕末の人でした。良心ということばは、人の性は生まれつき、善悪は固有のものでないとした告子（こくし）に対し、人性は善、固有のものとし、性善説を唱えた孟子（紀元前 372-289?）の告子に出てきます。

人間は生まれながらにして善であるという思想（性善説）で、人は成長するに従い、それが見えなくなってしまうということです。孟子は、「人の性の善なるは、猶ほ水の下（ひく）きに就くがごとし」（告子章句上）と言っています。この善を維持すれば、人は善であり続けるという意味です。その善の源の良心を、伐採された山に例え、「其れ其の良心（りょうしん）を放つ所以の者も、亦た猶（斧斤（ふきん））の木に於けるがごとき也。」（告子上）との説明があり、それは 伐採され尽くした山を見れば、何も無いように見えるが、それは人や動物によってはげ山になったであって、元々はそうでないとしての例えで、人に良心が固有であることを説いています。

新島襄の幕末の時代の儒教は古典である孔子や孟子の聖典の訓詁学ではなくなっており、朱子学（朱熹 1130-1200）を経て陽明学（王陽明 1472-1459）の時代になっていました。その時代には心学でもありました。良心は良知ともされ、聖人の経書を字義解釈ではなく、聖人の経書を通じて、聖人を感じ、読み手、あるいは解釈者の心が聖人と一致させる読み方を

していました。良心に至る過程、プロセス、それは良知（真理）の発見ですが、それが認識から、行為に至る、知行合一であり、また革命の精神に応用されると、激しい個人の行動へと至ります。一方で、悟りの方へ向かえば、自他の合一であり、自己と世界の同一で、身は軽くなり、重さもなくなり、時間も超え、自在となるといった、いろいろな転用が可能で、日本文化では馴染みのある感覚ではないでしょうか。

## 6. 安中藩の朱子学 良心、あるいは良知

新島襄は、安中藩の儒者、山田三川（1804 - 1862、江戸時代後期から幕末の儒学者。後に松前藩士、転じて安中藩士）の藩校に学び、同時に情勢学を学んでいます。

新島にとって良心は、馴染みのあることばだったと推測することは許されるでしょう。また、脱国して米国へ渡航し、そこに10年住み、大学を卒業したこと自体、「身体に気が充満した」からでしょう。

ここに新島の言葉の良心とは、良心や良知の発見でなく、身体にある善を蘇られ、充満される過程を通じて、人となると表現したと推測してもかまわないのでしょうか。

同志社では新島学があり、またキリスト教からの良心の探求がなされています。門外漢の印象かも知れません。

しかし、私には、良心と信仰が対比の関係にあるように思えます。その理由は後で述べます。

### 信仰に対する良心

日本の裁判制度のなかで、良心は法廷での宣誓でのことばです。日本の裁判における証人は宣誓において良心に誓います。この場合、良心は明らかに孟子の性善説を言っているのでしょうか。それとも西欧の Consiusness の翻訳語の良心なのでしょうか。

西欧での裁判では神に誓います。また同じ一神教のイスラームではアッラー（神に）誓います。良心には誓いません。またイスラームでは良心が満ち溢れることは神学的問題ではありません。善と悪も突き詰めてみれば対立概念ではありません。イスラームでは善悪とは無関係な状態があつて、悪は人が悪魔に惑わされた結果生じるのです。そして惑わしは人やジンなどを通じてなされます。

## 7. キリスト教主義同志社でのイスラーム研究

### イスラームからみた信仰と良心

信仰とは神の導きを求め従い、神の助けによって確実なものへと向かいます。信仰実践とは神に助けを求め、神の手綱をしっかりとつかんで歩くことです。自己の良心の発見ではなく、良心を身体に満ち溢れさせることでもなく、神からの支援、あるいは導きに助けられての実践です。

従いまして、信仰と良心が不可分の存在とすれば、これは江戸時代の朱子学から陽明学の

系譜の心学（聖人のことばの解釈でなく、聖人になること）となります。

ここでクリスチャン新島襄の心的態度におけるキリスト教信仰と良心の関係性が自分にとって疑問となりました。

イスラームの一神教はひたすら、アッラー（神）に縋る宗教です。自己の悟り、解脱、聖人となることなどは、直接的関係はありません。だからと言って、イスラーム世界の人々が聖人や、優れた人、スポーツのスーパースターなど、人並み越えた人たちを称賛しないということではなく、称賛します。また占いも大好きです。普通の人を楽しむものを楽しみ、普通の人悲しむものを悲しむ。物欲も旺盛です。しかし、聖人になるとはしないのです。

信仰と良心を結び付けると、どうしても聖人となって信仰しないといけないのかなと戸惑います。

また日本におけるイスラームの説明の非論理的な拙さがあります。聖典に書いてあるからそうなのだという理屈です。書いてあることは当為であって現実であるとは限らないのです。書いてあることを実現しようということで、実現された現実、あるいは事実ではない場合もあるのです。これが論理です。だから書いてあることは、あるべき姿（当為）なのか、それとある姿（現実）なのかを区別して対話しないといけないのです。イスラーム社会でイスラーム教徒たちと共に生活して、聖典に書いてあることを確認して当為なのか、現実なのか分かります。当為と現実を区別しない日本人のイスラーム理解の例をあげます。

\*「イスラーム教徒は異教徒を見たら、殺すんです。戦って相手が降伏するまで殺すのです。」

殺したら、戦いはないですよ。それに戦うという単語と、殺すという単語は別で、前者は戦闘の意味です。それが逆としても、ありえません。それができたら最強国です。ロシアとウクライナの戦いでも、相手を見たら戦って、殺して相手が降伏したでしょうか。抵抗されます。そう簡単に殺せません。

これはクルアーンの節を「敵と戦え、戦いの勢いが止まるまで」を「敵を殺せ、殺しつづまで」と書き換えて誤解します。止まったなら、勝利か、和議という概念が生まれますが、殺し続けるとした理解しないのです。そういう説明を聞いている日本人は、なるほどね、となります。

\*イスラーム教徒はアッラーの命じた通りに、一挙手一投足（いっきょしゅいつとうそく）動くのです。忠実なのです。

そんなことできる人間はいないでしょう。宗教では熱心すぎるのが問題なのです。熱心すぎると正しく理解できなくなるからです。通常、狂信、妄信です。熱心すぎれば自分勝手に解釈と行動をするようになり、アッラーの命令を正しく実行できなくなっています。また一方で熱心でない人も理解が不足しているのです。イスラームでは中庸が一番良いとなります。とにかく、熱心な信徒の中にはそれを実践しようとして、自分の妄想で動き、極端になる人が必ず現れます。これは神の言葉に自分の解釈を加えて、捏造した行為です。熱心だからできると思うのは人間の錯覚の範疇の一つです。曲解しないとできません。アラブの服装をすることがイスラームではありません。インドネシア、マレーシアのイスラーム教徒の服

装はアラブの服装でなくマレー民族の服装です。

#### \*イスラーム教徒の実践原則

イスラーム教徒はアッラーが禁止した行為を避けるというのが行動指針です。ハラールブームとは、合法主義ではなく、否定を避ける主義なのです。

このように、日本では、自分たちのイメージでイスラームが解説され、聞く方も、そんな宗教もあるのだね、まったくもって思考停止の問答です。

#### \*自爆テロのルーツ

日本の神風特攻隊で、戦闘機一機で戦艦を沈没させることができるコストパフォーマンスがよい攻撃ということです。日本赤軍派による70年代のイスラエルのロッド空港乱射事件を契機に導入され、2001年の米ニューヨーク同時多発テロの航空機乗っ取り自爆テロにつながります。イスラーム過激派のルーツが日本だったのです。今ではドローンの方が、コストパフォーマンスがよいので、自爆テロは減少傾向にあります。

こうしたイスラーム誤解が続いているのは、クルアーン解釈学が研究されていないからです。

### 8. キリスト教とイスラームの信仰における他力、良心にみる自力

孟子の良心は自己の人性に気づくことです。同時に、西欧の良心の要素である他者への哀れみを感じる付度も大事としています。

また日本人の宗教観の一つとして、自己鍛錬の道という認識もあります。

日本のイスラーム研究で、孟子や、仏教の悟りの印象で、スーフィズム研究が盛んです。神と一体となる、始まりのない永遠なる神と、生まれては死ぬ、つまり限りある人間との一体は、時間の中でのみ可能で、共存領域は天国での神の御許です。

こうした自立する人間の信仰を形而上だけで考えると、イスラーム研究は進みません。ですから、新島の良心ということばを性善説と割り切ってしまう、信仰を神へ身を委ねる信仰と理解すると、新島のことばの意味は理解できます。

### 9. 京都の宗教環境：浄土真宗に見るイスラームとの共通性：他力と信徒理解と実践力

京都は仏教各宗派の総本山があります。神道の伊勢にも数回行きました。アラブからの友人を本願寺、西、東と案内した時の経験です。本堂の脇に廊下の柱に親鸞上人のことばかけられていました。それをアラビア語に訳すると、アラブの友人は、これイスラームと同じだと言いました。いわゆる他力です。イスラームの縋り、頼る信仰のモデルを浄土真宗に見たような気がしました。学生時代に、イスラーム宣教の方と、西本願寺を訪問し、英語の通訳として、教務の方と会ったことがありましたが、その時は、他力についてあまり考えませんでした。

### 10. 研究の視点：イスラーム研究の視点



1) 他力と自力、人間の常態での他力信仰、イスラーム到来理由としてのシルク（多神崇拝の否定）、一日五省の信仰実践、反省後の歩みを許す懲罰なしの宗教、自立からの離脱と神からの助けによる信仰の確立などの視点から研究しました。

方法論として、クルアーン第1章の節を、慈愛と慈悲の言葉の元で、イスラーム入信への招待、入信、信仰実践、他力、最後の審判の日と並べ変えることで、第1章がイスラームの全てであるとの、預言者ムハンマドの言葉と一致させました。

\*イスラーム到来理由を、信仰告白文言の二重否定から確定し、イブン・タイミーヤなど伝統的イスラーム学者たちの一神教論が、唯一神論ではなく、多神の否定論であることと関係させました。

2) 宗教団税法（1939 公布）で保障された日本人の信仰する宗教の一つとしてイスラーム信仰を明確にしました。

この時期の大日本回教（イスラーム）協会の委託研究の成果、原正男『日本精神と回教』には、異国の宗教を日本人の信仰の一つとすることは、日本の外交的地位を向上させ、その逆は日本の外交的地位を低下させた。前者は仏教であり、後者はキリスト教であったとし、イスラームに対しては後者の鐵（てつ）を踏まずとの提言がなされています。当時の日本の外国宗教に対する立場です。

彼の指摘は正しいです。幕末の外国との和親条約が不平等条約であった理由にキリスト教禁令があったこと、この条約は欧米にとって日本における自国民の権利を守る上で必要であったことを理解することで、この不平等条約撤廃が、条約期間満了までできなかったことと背景が理解されるからです（高校教科書ではこの指摘がない）。

また沖縄米軍との日米地位協定（1960-）は、日本でのキリスト教徒保護と関係していることを、米軍基地があるドイツ、イタリアのキリスト教国にはこのような地位協定が存在しないことで裏付けました。

\*イスラームを外国宗教として今も見る日本の実情が2010年の警視庁国際テロ捜査情報流出事件で明らかになりました。警視庁は謝罪し、この情報内容を出版した出版社は、在日イスラーム教徒から訴えられ、賠償命令判決が下されました。

3) アフマド有賀のイスラーム信仰と、長男でキリスト教神学者有賀鐵太郎（同志社大学神学部学部長）のキリスト教信仰との関係の研究で、アフマド有賀は時代に最も相応しい宗教で、アジアの宗教のイスラームに気づいてイスラームへ入信、事業で財をなし、引退した後、伝道師となったことを指摘しました。これは、外国宗教の理解や、日本人が入信することが、お国を興す第一歩ということだと思います。

4) ジェンダー研究者のイスラーム研究の検証を通じての新たな発見:

イスラーム法が、人の意思は揺れ動き、確定しないという前提で、婚姻法を含む法的性格を明らかにしようとしている。その例として、法定婚約撤回権と離婚制度の共通性、婚資返還放棄の夫の離婚権行使と、婚資返還による妻の離婚権行使の関係性、一夫多妻制度の中の一夫一妻のイスラームの婚姻関係構造などを研究しました。

5) 世界的イスラーム学者である井筒俊彦の研究手法を、イスラーム法理学の文理解釈であることを明らかにしました。

御清聴ありがとうございました。